笑天

まけるまい！ 今年も田植え

山形・鮭川、新庄 被災地からバスツアー

東日本大震災で津波被害に遭った仙台市や東松島市の被災者約50人が2、3の両日、バスツアーで新庄市と山形県鮭川村を訪れ、田植えやワラビ採りを楽しんだ。

ツアーは新庄市内の農家グループ「ネットワーク農縁」などが企画し、昨年6月に続き2回目。

農縁は昨年、収穫米を参加者に届けるとともに、残りを支援米「まけるまい！」と銘打って販売。売上金を活用し、震災の風化を防ごうと「語り継ぐ会」を2～4月に首都圏で計4回開き、宮城県沿岸部の被災者が津波の体験や教訓を話した。

今回のツアーには首都圏を中心に会の聴衆ら約30人が加わり、被災者と一緒に田植えに汗を流した。秋の収穫米の一部は「まけるまい！」として販売する予定だ。

仙台市若林区の若林日辺グラウンド仮設住宅で暮らす主婦大友由美子さん(62)は「息苦しさのある仮設住宅からしばし離れ、緑を眺めて土に触れ開放感を味わえた」と感想を語った。

ネットワーク農縁の高橋保広代表(65)は「着実に強まっている支援への思いと広がる輪をこれからも大切にしていきたい」と話している。

晴天に恵まれ、田植えを満喫する参加者＝２日、新庄市

河北新報

6月4日（月）

河北新報社
仙台市青葉区五橋１-２-28
（郵便番号 980-8660）

「東」は、未来

電話（022）211
読者相談室 1447
報 道 部1127 販 売 部1304
スポーツ部1130 営 業 部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事 業 部1332
総合案内（022）211－1111

ご購読申し込みは
0120－09－3746